

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

12月24日(水)～1月5日(月) ※12月30日(火)は開催いたします。

現代工芸家による **新春を寿ぐ酒器展**

近畿圏を中心に活躍し、21世紀のアートシーンを牽引する作家21名による、酒器をメインとするグループ展を開催いたします。今展では陶磁器とガラス素材の杯、ぐい呑、徳利、片口などの酒器に加えてお正月の床飾りや、お初釜の茶器としてお使いいただける各作家の作品も同時に展覧いたします。

【陶磁器】
井倉 幸太郎 井尻 杏那 井上 真利
大上 裕樹 鍵谷 雅美 北浦 真保
小孫 哲太郎 鹿谷 敏文 瀬 知子
中村 宏太郎 橋本野 淑子 西 崇
前田 あかね 松田 昂 三島 寛也
山田 浩之 渡辺 大輔
【ガラス】
加藤 千佳 佐々木 伸佳 白藤 晴久
田仲 哲也 以上21名
(素材別・敬称略・50音順)

美濃 **安洞 雅彦 織部展**

安洞雅彦先生は1973年名古屋にて祖父の代から続く古美術商に生まれ、当初の音楽活動の生活から一転2002年より陶芸の道へ進まれました。初個展となる今回は代表作である数百種に及ぶ織部や志野の豆向付をはじめ、御深井焼の向付、黒織部、鳴海織部、織部黒、総志野などの茶器や酒器、美濃唐津の作品など、まさに「へがれもの」として名を馳せた古田織部好みのつづわを一堂に展覧いたします。



「織部豆向付 各種」
(およそ10×10×高さ3cm前後)

1月7日(水)～12日(月・祝)

ー日本ー HINOMOTO Ⅲ **奥谷 博 展** 藝術無終

本展では、『月刊美術』にて描き下ろし連載「藝術無終」(2024年9月～2025年8月)の作品原画もあわせて展覧いたします。「私にとって絵を描くことは、生きることだ。」と語る、文化功労者にして、文化勲章を受章された奥谷博先生の祈りの言霊を、この機会にぜひご高覧賜りますようご案内申し上げます。

「ギャラリートーク」 ■1月10日(土)午後3時から

「HINOMOTOー ひ潮みち潮」(150F 181.8×227.3cm)



1月14日(水)～19日(月)

現代書道二十人小品展

『第70回現代書道二十人展』の開催に併せ、美術画廊では現代書道二十人展にご出品の書家による小品展を開催いたします。大作とは異なった、凝縮された気と美の作品をぜひご高覧ください。

〈出品書家〉
新井 光風 石飛 博光 岡野 楠亨 尾西 正成 角元 正燦
倉橋 奇艸 黒田 賢一 近藤 浩乎 高木 聖雨 高木 厚人
土橋 靖子 中村 伸夫 永守 蒼穹 星 弘道 真神 巍堂
柳澤 朱篁 吉川 蕉仙 吉川 美恵子 吉澤 鐵之 綿引 滔天
(敬称略・50音順)

1月21日(水)～26日(月)

竹内 康行 展 ーフランスの四季と、日本の四季ー

フランスと日本、それぞれの四季をテーマに、季節の移ろいの中で変化する建物や人々の姿、そして空気や光の色合いを描いた作品の数々を展覧いたします。異なる風土が生み出す四季の表情や、美意識の違いを通して、両国それぞれの豊かな季節感を堪能ください。



「秋のチュイルリー公園」(30×70cm)

小島 陽介 作陶展

小島先生は穴窯で焼く、伊賀らしい焼き締めをはじめ、唐津・高麗・磁器・銀彩と引き出しが豊富です。修行時代、料理人としての勉強もされていたこともあり、プロの料理人からも高く支持されています。ぜひご高覧ください。



「伊賀壺」(26.5×26.1×高さ 25.7cm)

1月28日(水)～2月2日(月)

有本 空玄 作陶展

広島で作陶している有本空玄先生の個展を開催いたします。志野一筋で活動している先生ですが、現在は、柿渋と名付けた楽焼や樫の木の灰を使った灰釉も手掛けています。今回の個展では、縄文をテーマに芸感を広げつつある有本先生の勢いを感じる内容の展覧になります。ぜひご高覧くださいますようご案内申し上げます。



「樫灰大皿」(55.8×55.8×高さ5.5cm)

佐々木 麦 展 ーかたまらないわたしー

限りなく単純化され描かれた作品の中にも、写実的に描いた以上のリアリティを実感することがあります。今展では、滋賀の自然からイメージした、色と形が連鎖する中で生まれた作品30余点を展覧いたします。

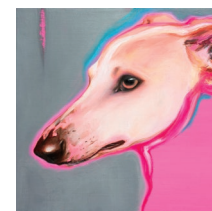


「Border.2.25.1」(30P)

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

12月24日(水)～1月5日(月) ※12月30日(火)は開催いたします。

おお かわら あい **大河原 愛 鼓膜に残る静寂を優しさに変えるすべについてⅡ**



13年ぶりの大河原愛先生の個展となります。豊かと言われる現代社会が置き去りにしている人々…そこに寄りそうまなざしを油彩、ミクストメディア、コラージュ作品、約25点の新作から感じていただけたら幸いです。

「光降る森17」(30.2×30.2cm)

1月7日(水)～19日(月) ※1月13日(火)は開催いたします。

やま ば はる き **山羽 春季 展 ー妖精の丘ー**



フィギュアスケーターの演技に感動したことから始まったコマ送りの表現。山羽春季先生の作品は静のイメージが強い日本画界において強いインパクトを残します。精霊や妖精のような小さな踊り手たちの愛らしさをお楽しみください。

「精霊たち」(3号)

1月21日(水)～2月2日(月) ※1月27日(火)は開催いたします。

くり はら かん じ **栗原 莞爾 展 THE CITY**



写真とデジタル画像を繰り返しコラージュすることで熱転写シートを絵具代わりに表現する独自の技法を確立。待望の初個展では実際に足を運んで感じた大阪のリアルな空気とそこに潜む空気が共存する新作、約20点を展覧いたします。

「#osaka #sennichimae」(30P)

2月4日(水)～9日(月)

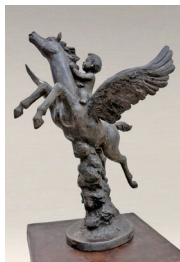
たまのせいぞう

玉野 勢三 彫刻展

—こころを形に 生命の輝きと歎び—

ブロンズ、テラコッタ、乾漆という異なる素材を操りながら、一貫して生きていることの美しさを表現されている玉野勢三先生。2メートルの大作に加え、微笑ましいこどもの姿の作品の数々が皆様をお迎えいたします。

「ペガサスの夢」
(高さ63cm(台座含))



高島屋大阪店6階美術画廊のご案内 2026 1・2月

2月4日(水)～9日(月) ※2月6日(金)、最終日は午後3時閉場

やまむらごりゅう

圓照寺門跡-大阪精華会 山村御流いけばな展

令和八年 大阪新春華展

令和八年初春 今年も 大阪高島屋でいけばな展を 開催させていただきます
おかげさまで本年六十一回目を迎えました

良い年でありますように 心をこめて 春を迎える草花たちを
表現したいと存じます

優しい植物とともにひと時をお楽しみいただければ一同の幸せでございます

ふれ 山村御流いけばな



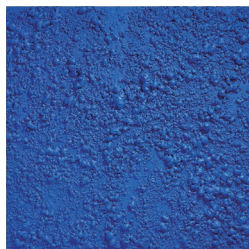
2月11日(水・祝)～16日(月)

さわだみつはる

沢田 光春 展

シュルレアリスムの重鎮ポール・デルヴォーのもとで親炙した唯一の日本人画家、沢田光春先生の5年振りの展覧会です。気迫漲る色彩とマチエール、超絶の技巧。本場ヨーロッパで鍛え抜かれ、功績に裏打ちされた「東洋のシュルレアリスム」と称される極上の絵画を存分に味わっていただきますようご案内申し上げます。

「青き泡」(130.3×130.3cm)



ふじむらしゅうじ

藤村 州二 作陶展

藤村先生は、近代数奇者として名高い川喜田半泥子が築いた窯を受け継ぎ、三重県津の地で作陶に勤まられています。半泥子の愛弟子である坪島玉平先生に師事した藤村先生は、確かな筆致で赤絵や染付などの美しい絵を描かれ、確かなロクロで茶盤や器をひいておられます。ぜひご覧ください。

左:「灰被伊賀四方入水指」(16.3×16.2×高さ18.0cm)

右:「赤絵椿文茶盤」(12.8×12.2×高さ7.9cm)



2月18日(水)～22日(日)

SINCE vol.V

100年にわたり多様な表現をもって今日性を世に問い、影響をもたらし続ける国画会。ここに集う11名はその理念である「創作の自由」を継承していく画家たちです。互いが自己研鑽を積み重ね、高め合いながら国画会の中核を担ってゆく彼らの“起点”となる展覧会をぜひご覧ください。

〈出品作家〉

麻田 征弥	肥沼 守	小西 千穂	嶋村 貴志	白石 一徳
堤 建二	長谷川 宏美	福室 千尋	宮本 薫	米田 貫雅
渡辺 夕里子				(敬称略・50音順)

ふるたにかずや

古谷 和也 作陶展

古谷先生は代々窯業に携わる家に生まれ、陶芸作家としては2代目にあたります。父の古谷道生先生は、穴窯の名手として広く知られた存在であり、先生自身もその技術や姿勢を受け継ぎながら、自らの道を探求しておられます。ぜひご覧ください。

「信楽壺」(口徑35.5×高さ28cm)



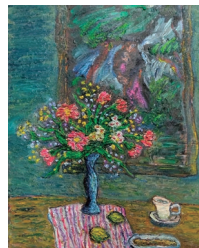
2月25日(水)～3月2日(月)

たかなみそうたろう

高波 壮太郎 展 —記憶—

このたび高島屋大阪店での37回目の個展を迎えられる高波先生。今回は、近年の作品に加え、50代に制作された数点も併せて展覧いたします。77歳となる今もお、創作への情熱は一層深まり、描くことこそが生きていく実感とする先生。絵具を幾重にも重ね、限界の先に潜む美の本質を追い求め続ける姿勢が作品に息づいています。ぜひご覧ください。

「La Vie en Fleurs」(30F)



かとうたかし

加藤 敬 作陶展

1973年陶芸家三代 加藤溪山先生の長男として京都に生まれ、大阪芸術大学を卒業。現在は京都の工房で制作しておられます。高島屋大阪店美術画廊での初めての展覧会です。彫を施した器をぜひご覧ください。

「線刻紋器 -縁-」(30×30×高さ45cm)



TAKASHIMAYA
2026 1・2月
Art Information
高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

2 4 16
WED MON

※2月10日(火)は開催いたします。

いま い さだ まさ

今井 完眞 陶展 -リアルファンタジー 其ノ式-



今井完眞先生は、1989年京都市に生まれた後、東京藝術大学で陶芸を学び、いきもの造形の分野で人気を集める気鋭の作家です。文化勲章受章者の陶芸家今井政之氏を祖父に、今井眞正氏を父にもち、幼少の頃からやきもの本質を学び、細部を緻密に表現する造形力は国内外で高い評価を受けています。初となる今展では、代表作である亀や蟹から招き猫、達磨まで、リアルとファンタジーが交差する新作の数々を発表いたします。

「蟹」(33.6×33.0×高さ15.2cm)

2 18 3 2
WED MON

※2月24日(火)は全館休業日のため、閉場いたします。

てらうちまこと

寺内 誠 展 -まだ再生されていない音-



油彩という素材に改めて着目し、物質感や偶発性によってできるマチエールを意識的に取り入れて制作される作品は油絵の概念を覆します。目の前の景色を手がかりに見えない世界を手繰り寄せ、そこに漂う不可視の輪郭を描き出す寺内誠先生の高島屋での初個展となります。

「音溝-循環-」(33.3×33.3cm)